



「窓ぎわのトットちゃん」 子どもの自由と自主性を大事にする学校があった

いのしすファミリーが

黒柳徹子が自身の子どもの時代を綴った自伝的小説が『窓ぎわのトットちゃん』です。1981年に出版されたこの本はたちまちベストセラーになり、世界の20以上の言語に翻訳されて、世界の累計部数は何と2500万部といえます。この映画は初のアニメーションで登場。

1940年（昭和15）、好奇心が旺盛で、お話が好きな小学1年生のトットちゃん。ふだんの行動に落ち着きがないことを理由に小学校を数か月で退学になりました。東京の自由が丘にあるトモエ学園に入りました。トモエ学園は自由を重んじる小林校長先生のもとで、教室が廃車に

なった電車、みんな一緒にの学び、本がいっぱいいる図書室、裸で入るプール、障がいをもつ子どもも走る運動会など、子どもの自主性を大切にする校風のおかげで、トットちゃんは日々、自由でのびのびと成長していきます。友だちになった小児マヒのヤスアキくんを助け、かばい、ともに遊ぶ姿が微笑ましいのですが、そのヤスアキくんに死が訪れ、泣き伏すトットちゃん。

太平洋戦争勃発で、トットちゃんの周囲も一気に戦時色に。バイオリンストのお父さんは軍から国威発揚のため軍歌の演奏を要請されますが、拒否します。ささやかな市民の抵抗も描かれます。トットちゃんの愛称は両親が「テツコちゃん」と呼ぶのを本人が「トットちゃん」と覚えてしまったため。「窓ぎわ」は教室では外が見える窓ぎわが好きだったことから。上映時間は114分。



住民との約束を守らず、「病院つぶしの維新市政は許せない」の声が

大阪市立住吉市民病院は2018年3月末に閉院。小児科と産婦人科ですが、10代シングルマザーや未受診妊婦出産など福祉のニーズの高いケースを積極的に受け入れ、「家族付添いなし入院」「重症心身障害児の短期入所機能」など、極めて重要な役割を果たす病院でした。

近くに府立の病院
「二重行政のムダ」と

約2キロ先には「府立急性期・総合医療センター」があり、維新市政が「二重行政のムダ」と決めつけ、同センター内に母子医療センター設置を条件に閉院を強行しました。

市立病院を府立病院に統合？
大阪市内には十三市民病院（淀川）と市立総合医療センター（都島）の2つの市立病院があります。大阪府は「統合しても住民サービスは低下しない。地域医療に大きな変化はない」と説明します。住吉市民病院院長の舟本医師は「少子化で民間病院は引き受けない。地域に必要な医療や公立病院の社会的役割を理解せず、病院の廃止を目的化している」と痛烈に批判されています。今後とも「府市一体」の動きに対し、住民と共に監視と運動が求められます。

地域医療はどうなった
いま閉院した住吉市民病院の跡地の一角に立つ住之江診療所。大阪府が暫定的に開設し、小児科と産婦人科に外来患者が通っています。すぐ隣にあった市民病院の建物は解体されて更地になっています。

2025年を目途に大阪公立大学が運営する新病院をつくる大阪市の計画はストップしたまま、全く先が見えない状況です。

地域になくてもならない公立病院 府と大阪市がそれぞれ役割発揮を

検証「維新政治」

住吉市民病院 閉院後の地域医療は

（大阪市住之江区）



地域住民に身近な診療所だが、「早く入院できる新病院をつくって」

Culture Navi かるチャーナビ

作りませんか



ほうとう

岸和田市職労 学校支部 給食分会

協力：現業評議会・給食部会

からだもこころも温まる



材料（4人分）

■鶏肉40g、だいこん60g、にんじん20g、かぼちゃ40g、さといも30g、しめじ20g、青菜（小松菜、白菜など）30g、削りぶし8g、だし昆布2g、水480cc、赤みそ大さじ3、濃口しょうゆ小さじ1、みりん小さじ1、ほうとう200g

作り方

- ①鶏肉は細かく切る。
- ②だいこんは1cm、にんじんは0.5cm、かぼちゃは1.5cmのいちょう切りにする。
- ③さといもは半月切り、しめじは小房に分け、青菜は3cmの長さに切る。
- ④削りぶしとだし昆布でだし汁をとる。
- ⑤だし汁に材料を加えて煮る。
- ⑥ほうとう、青菜を加えて煮る。
- ⑦赤みそ、濃口しょうゆ、みりんを合わせて調味する。

心に響くひとこと

とっても小さいものが
大きいものをうごかすことだって
あるんだよ

アマンダ・ゴーマン
（詩人 1998年～）

長時間労働や低賃金。「どうしようもない」「相手が大きすぎる」とあきらめていませんか。「ひとりぼっちだ」と思っていますか。そんなことはありません。「とっても小さいものが大きいものをうごかすことだって、あるんだよ」「いつかきっと友だちがみつかる。いっしょにきぼうをもってくれる友だち、ゆめをしんじてくれる友だち、いっしょにたたかってくれる友だちが。」と若き詩人が励ましの言葉をあなたに送ります。

今月の 記念日

1月27日
求婚の日

1883年1月27日、中尾勝三郎という人が新聞に「嫁探し」という「求婚」広告を出したのがきっかけです。その結果、近くに住む19歳の女性が応募し、めでたく結婚されたそうです。現代で言えば、破天荒な「婚活」と言えないでしょうか。でも、結婚のタイミングやきっかけをなくした人には、この日を考えるきっかけになるかもしれません。「求婚」とは、結婚を決める前の一段階で結婚を申し込むこと。お互いの結婚の意思の疎通を図るものとして「プロポーズ」とも言います。「事実婚」「LGBT婚」「事前契約婚」など新しい結婚のカタチが増えていますね。